



ニュースレター創刊に寄せて



理事長
山下 敏夫

オール女性医師キャリアセンターは、本学に勤務する全ての女性医師に寄り添い、共にキャリアを形成することを目的に、2020年4月に設置しました。本学は、全国と比較して医学生に占める女性比率、医師に占める女性比率ともに高い大学であり、2009年に卒後臨床研修センターに女性医師支援部門を設置して以来、周囲に先駆けて短

時間勤務正職員制度を整備するなど積極的に活動してまいりました。さらに、近年の全国的な女性医師の活躍フィールドの拡大を受けて、女性医師を取り巻く人や体制、女性医師のキャリアプラン・ライフプランを含めた、医師としてキャリアを積む女性に対する包括的な取り組みを実践するために、同部門をセンターに格上げし体制強化を行いました。

センターでは、あらゆる年代や立場にある女性医師が充実感を持って働き続けることができるよう様々な取り組みを推進しています。女性医師が働きやすいと思う職場環境を整備することは、将来的に男女を問わず全ての医師にとっての働きやすい環境に繋がります。これまで行ってきた支援策の継続・発展に加え、時代やニーズの変化に対応したより良い職場環境の形成に努めてまいります。

このたび、センターの活動成果や将来性を評価いただき、厚生労働省の「女性医療職等の働き方支援事業」に採択されたことで、センターの活動に一層の弾みがつくものと期待しています。センターでの活動を通し、女性医師の活躍推進はもちろん、医師不足の解消、働き方改革へと繋げていきたいと考えています。

本学は、1928年に大阪女子高等医学専門学校として設立以来、女性医師の育成と活躍を推進してきました。近年、女性医師数は右肩上がり上昇して、今後も一層女性医師への期待や役割が大きくなっていく中、女性医師が医師としてのキャリアを継続できる環境整備を目指して、2020年4月、オール女性医師キャリアセンターが本学に設置されました。

センターでは「すべての女性医師に活躍のステージを提供する」をスローガンに、キャリアアップ支援、復職支援、職場環境の充実、啓発活動、相談窓口設置を活動の柱としています。キャリアアップ支援として、診療や教育、研究分野での優れた成果に対する奨励賞（アプリコット賞）を創設しました。職場環境改善のため女性医師専用当直室を整備し、さらに病児保育室の開室を進めています。また、臨床に携わる講座から1～2名の女性医師キャリア形成支援担当者を選出いただき、講座・診療科とセンターの橋渡し役として、キャリア支援活動への協力をお願いしています。復職支援プログラムは、この先生方が中心となってきたものです。



オール女性医師
キャリアセンター
センター長
植村 芳子

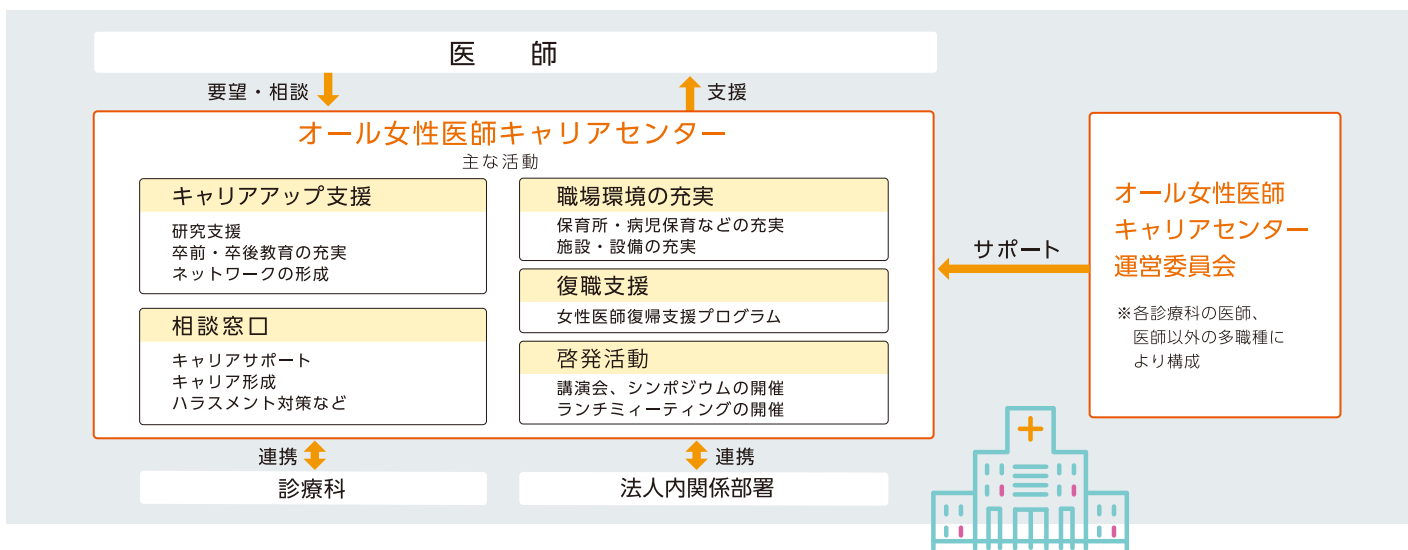
この度、これら様々な活動を皆さんに知ってもらうために、従来のホームページに加えて「アプリコット通信」を発行するに至りました。今後は年に数回発行予定で、各種情報提供や学内外で活躍されている女性医師を紹介するなど、啓発活動の一助になればと考えています。

センターの活動は、まだまだこれからの部分が多いものの、課せられた責務は重いものと認識しています。女性医師への取り組みが、すべての医師、医療職の職場環境整備に役立つことを願い一層尽力いたしますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

オール女性医師キャリアセンターのご紹介

運営体制

結婚、子育て、介護などさまざまなライフイベントの中で多種多様な働き方を選択する女性医師のキャリア形成を支援するとともに、全ての女性医師が安心して勤務できる職場環境を構築することを目的としています。



沿革

- 2009年4月 卒後臨床研修センター内に「女性医師支援部門」を設置
- 2019年8月 理事長直轄作業部会「専攻医確保作業部会」内に「女性医師支援分科会」を設置
- 2020年4月 「オール女性医師キャリアセンター」を設置
- 2021年8月 オール女性医師キャリアセンターの取り組みが、厚生労働省「令和3年度 女性医療職等の働き方支援事業」に採択される。
- 2021年12月 オール女性医師キャリアセンター キックオフイベント実施
「キャリアプランもライフプランもあきらめない！ ～知っておきたい各種制度のご紹介～」
- 2022年4月 附属病院附設保育所内に病児保育室開設（予定）

活動内容

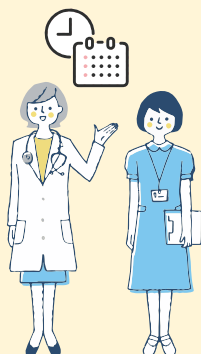
短時間勤務正職員制度

育児又は介護を行う女性教員（医師及び研究者）について臨床・研究業務の継続ができるよう制定された制度です。1日の就業時間を短縮する一般的な育児・介護短時間勤務制度とは異なり、より柔軟な働き方ができます。

週当たりの勤務日は
2日以上6日未満の範囲内で
選択可能

半日勤務や6時間就業で
始業時間を個別設定する
ことが可能

就業時間を4時間以上
7時間15分の範囲で設定可能



病児及び病後児保育支援制度

地域の病児保育施設、ベビーシッターなどの病児保育により保育事業者などに支払った保育料金のうち、子ども1人につき1回あたり1万円を上限に、実費を補助します。

女性医師復帰支援プログラム

出産や育児、介護などにより一旦離職した女性医師の復職に向けて、臨床現場に復帰し易いように、各講座で復帰支援プログラムを作成しています。検査や治療の特技、外来や病棟診療における種々の業務内容について、独立して就業できるまでのおおよその研修期間を設けています。プログラムの内容は個人のキャリアやプランク期間によって柔軟に対応します。

冊子作成
しました！



関西医科大学における女性医師の活躍推進に関する方針について

本学では、女性医師の活躍推進に関して、令和4年1月11日付で次の方針を発表しました。

本学は、昭和3年に創立された大阪女子高等医学専門学校に端を発し、以来90年を超える歴史の中で、臨床や研究、教育の場で幅広く活躍する多くの女性医師を輩出してきました。

そうした開学の経緯から、本学では女性の社会進出に真摯に取り組んでおり、医師免許を有する教員に占める女性の割合は27.5%となっています。一方、職位別に見ると教授8.2%、准教授5.1%、講師21.3%、助教36.3%と上位の職位ほど女性比率が低く、また、女性管理職比率も10.6%と低い水準であるという課題を抱えています。

本学の使命として公共の健康・福祉に寄与するには、広く社

会に貢献し得る医師の育成が不可欠です。近年の医師における女性比率の向上に伴い、今後の医療界では、女性医師がますます欠かせない存在になることは言うまでもなく、女性医師の育成は本学にとっての喫緊の課題であると言えます。

そこで、本学では、以下に示す目標を通じて、医療界に存在するガラスの天井を打ち破り、様々な女性医師が活躍できる場を提供します。女性医師があらゆる場面で活躍し、多様な考え方がもたらされることで、新たな価値観が創出され、女性医師のみならず男性医師も働きやすい勤務環境が形成され、本学のさらなる発展が期待されると考えます。

目 標

令和8年度末までに

- ・ 医師全体に占める女性比率を35%以上にします。
- ・ 管理職である医師のうち、女性比率を15%以上にします。

上記の達成に向けて、本学は、医師の働き方改革と連動し、女性医師の登用基準を含めた医師定員の見直しなどを行い、能力を正当に評価する施策を総合的に進め、女性医師が充実感を持って働き続けられる環境を構築します。

ただし女性医師の採用や登用に関して、単なる基準の緩和や数合わせを行うのではなく、公平性の観点からも女性医師本人の意欲や能力を勘案した上で判断するものとします。

理事長 山下 敏夫

学 長 友田 幸一

キャリア形成担当理事 金子 一成

オール女性医師キャリアセンター長 植村 芳子

予約フォームできました!!

附属病院3階の女性医師専用当直室を管理運営しています。利用できる時間帯は、日勤帯と夜勤帯の二部制で、予約優先制です。当直室内は、快適に利用できるように、加湿空気清浄機やヘアドライヤーを設置してアメニティを充実させました。令和4年4月からは、センターのホームページから利用者が直接予約できるようにリニューアルしました。令和3年12月の運用開始より、確実に利用者の拡大につなげることができました。今後も、ますます利便性、快適性の向上に努めます。

利用時間 日勤帯：10時～15時 / 夜勤帯：18時～翌9時

利用方法 ホームページ掲載の予約フォームから申し込んでください。



鍵は、附属病院1階 防災センターで職員証提示のうえで借り受けることができます。利用後は、速やかに返却ください。

女性医師奨励賞(アプリコット賞) 受賞者決定!!

本学では、令和3年度から教育、研究又は診療の分野での業績が極めて顕著であると認められた本学の女性医師を顕彰することにより、女性医師のモチベーションの維持と向上を図り、女性医師全体の更なる活躍を支援するために、関西医科大学女性医師奨励賞を創設しました。この度、審査を経て、次の5名の先生方に授与が決定しました!



形成外科学講座
病院助教
田中 寧子先生
(附属病院形成外科勤務)

受賞理由

短時間勤務正職員制度を活用しながら、育児と仕事を両立されています。忙しい毎日であっても、専門医を取得するなどキャリア形成にも積極的であり、多くの育児中の女性医師のモデルとして相応しいと評価しました。

喜びの声

女性医師奨励賞を授与して頂き、誠に有難うございます。仕事と育児の両立が困難な時も多くありましたが、周りの先生方、スタッフの皆様のおかげで現在まで形成外科医師として働くことができたことに心より感謝申し上げます。



小児科学講座
准教授
石崎 優子先生
(総合医療センター小児科勤務)

受賞理由

長年に亘り、臨床と小児の心身症、小児保健に係る研究活動を継続され、令和3年度はクラウドファンディングにチャレンジし達成されました。当年度は特にご活躍が顕著で、優れた成果を挙げられました。

喜びの声

アプリコット賞を授与頂き誠に有難うございます。私は本学を卒業し臨床研修の傍ら、研究生を続け論文博士を取得しました。子育てしながらの研究で地味な経歴ながら、栄えある賞を頂きましたこと、心より感謝いたします。



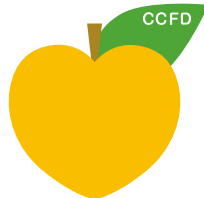
腎泌尿器外科学講座
診療講師
滝澤 奈恵先生
(附属病院腎泌尿器外科勤務)

受賞理由

子育て中でありながら外科系の診療科において、教育、研究、診療の各分野で活躍されています。また、専門医取得の他、学会等でも積極的にキャリア形成を図られ、女性医師のモデルとして相応しいと評価しました。

喜びの声

アプリコット賞を賜り、大変光栄に存じます。現在10歳と12歳の子供がおりますが、先生方をはじめとした周囲のみなさまのサポートにより現在まで続けることができました。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。



女性医師奨励賞 (アプリコット賞) 受賞者



病理学講座
講師
大江 知里先生
(附属病院病理診断科勤務)

受賞理由

教育、研究、診療の各分野の他、医学部生の国際交流活動や女性医師支援など大学運営にも積極的に携わられています。学会等でも活躍され、学内外の多方面において優れた成果を挙げられました。

喜びの声

このような賞をいただけたのも、これまでご指導・ご支援くださった先生方のお蔭と心から感謝しております。これを励みに、男女問わず本学でキャリアを形成できる環境を整えることにも関わっていただければと思います。



外科学講座
診療講師
兼松 清果先生
(香里病院外科勤務)

受賞理由

乳腺外科医として患者に寄り添い診療に携わられています。香里病院乳腺センターでも地域医療の要として診療に従事されており、女性医師が敬遠しがちな外科系の診療科において、今後も更なるご活躍が期待されます。

喜びの声

この度はアプリコット賞を頂き、大変光栄に思います。これまで御指導頂いた先生方やスタッフの皆様など、今の私を育てて頂いた全ての方に感謝申し上げます。今後も地域医療に微力ながら尽力していく所存です。

順不同
(令和4年3月現在の職位で記しています)

Apricot

スタッフ

センター長: 植村 芳子 診療教授(総合医療センター臨床検査医学科)
副センター長: 覚道 奈津子 教授(形成外科学講座)

兼務教職員: 木下 秀文 教授(腎泌尿器外科学講座)
出口 育代 部長代理(医学部事務部)
永村 千明 主任(医学部事務部)

お問い合わせ、ご連絡先

センターメールアドレス ajcareer@hirakata.kmu.ac.jp

センターホームページ <http://www7.kmu.ac.jp/ajcareer/>

内線: 80-3855

職員にご用事がある場合は、枚方学舎医学部棟1階
法人事務局事務室内 医学部事務部
出口または永村宛お越しください。

編集後記

3月8日は国連が定める「国際女性デー(ミモザの日)」でした。日本でも「女性の生き方を考える日」として、各種メディアで取り上げられていましたが、私自身は今までこの日の存在を知りませんでした。「無関心は最大の罪」とは、よく言ったものです。本学の女性医師活躍推進活動を広め、教職員の皆さんに関心を抱いてもらえるように、と気持ちを新たにしました。